
眠り王子

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眠り王子

【Nコード】

N0520U

【作者名】

RAN

【あらすじ】

あるバンドメンバーのステージ終了後。
バンドメンバーの女性が、控え室に戻ると、ボーカルの男性が休んでいる所を見つける。

サイト、dノベ転載

ピンクが控え室に入ると、クロがソファで寝ていた。
ピンクは、背もたれの後ろ側について、クロの顔を覗き込んだ。
静かな寝息をたてて、クロは寝ていた。
ゆっくりと、クロの前髪をつまんでみる。
そのまま指をずらすと、クロの髪はピンクの指から滑り落ちた。

「ん……」

すると、ピンクの気配を感じ取ったか、クロは静かに目を開けた。
視線が定まっているのか、いまいちわからないような瞳で、ピンクの方を見た。

クロはいつもこのような表情をしているので、寝ぼけている表情なのかどうかはわからなかった。

「ん、起こしたか」

ピンクは、あまり悪びれた様子はなかった。

何もなかったように言った。

「なに」

とりあえず、クロはそう言った。

こちらも抑揚なく言うので、どう思っているのかはわからない。
い。

「いや、お前って髪きれいだよなって思ってた」

恐らくクロは髪に触っていたことに気付いていると思ったので、
ピンクはそう言った。

そして、今度は頭を撫でた。

すると、クロはニヤリと笑って、近くにあったピンクの髪をつか

んだ。

「お前は髪バサバサだもんな」

指でもてあそびながら、皮肉げに言った。

「うつせえ」

ピンクは悔しげに言うと、クロの髪を引っ張った。

「痛いし」

すると、クロも負けじとピンクの髪を引っ張る。

しかし、その力が思ったよりも強く、ピンクはクロに覆いかぶさるようになってしまった。

「しつれーい」

と、そこにブラウが入ってきた。

そして、ソファにいるクロとピンクと目が合った。

「あ、これは本当に失礼」

その二人の状態を見て、何かを察し、ブラウは扉を閉めた。

静かな空間に、ブラウが去る足音だけが響いた。

そして次の瞬間。

「待てー！」

ピンクは叫んで、ブラウを追おうとした。

しかし、クロがピンクの髪をつかんでいた手を肩に回して、離さなかった。

「クロー！」

「髪がゴワゴワだって、お前はいい匂いがするからいい」

そう言うと、クロはピンクを両手で抱きしめた。

そろそろ、ソファから覗き込む姿勢では辛くなってくる。

「クロ、ちょっと辛いんだけど……っつーか、そろそろ離してくれねえか……」

「嫌だ」

クロは即答だった。

「クロ……」

ピンクは、ため息まじりにクロの名前を呼ぶ。

「俺の安眠を妨害した罰。今度は俺を眠らせてくれよ」

クロはそう。ピンクの耳元にささやいた。

クロが勝ち誇ったような笑みを浮かべているのは、見えなかったが何となくピンクにはわかった。

この状況がまんざら嫌でもない自分があるのが、ピンクの悔しさをさらに増大させていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0520u/>

眠り王子

2011年6月15日14時53分発行